

会派視察研修報告書

平成28年11月 4日

碧南市議会議員 様

会派名 市民クラブ

代表者名 石川 輝彦

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員3名分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	石川輝彦、神谷悟、杉浦文俊
日時	平成28年10月17日（月）～10月18日（火）
視察先	埼玉県春日部市、埼玉県深谷市 社会福祉法人シルヴァーウィング（東京都）
研修内容	春日部市：介護支援ボランティアポイント制度事業について 深谷市：ビーチバレーコート場整備について 社会福祉法人シルヴァーウィング：介護ロボット導入について
日程	10/17 埼玉県春日部市 13:30～15:00 10/18 埼玉県深谷市 10:00～11:30 社会福祉法人シルヴァーウィング 15:00～16:30
備考	杉浦議員については、公務のため10月18日埼玉県深谷市まで同行。

視察研修報告書

平成28年11月4日

議員氏名 石川 輝彦

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 平成28年10月17日（月）～平成28年10月18日（火）
- 2 視察先 埼玉県春日部市、深谷市、社会福祉法人シルヴァーウィング（東京都）
- 3 視察の種類 会派視察研修（市民クラブ）
- 4 視察の成果等

【春日部市・・・介護支援ボランティアポイント制度について】

- ・超少子高齢化社会が見えてきている中、今後の介護の仕方を考える必要があり、老老介護の手段の一つとして、ボランティアポイント制度の視察を行った。
 - ・春日部市の介護支援ボランティアポイント制度は、ボランティア活動を通じ、地域貢献や社会参加をすることで、ご自身の健康増進や、いきいきとした社会づくりを目的とし、市内在住の65歳以上の方を対象としている。
 - ・春日部市の介護支援ボランティアポイント制度導入の経緯として、第5次総合計画の策定にあたり、介護予防の一つとして審議会委員からの提言がスタートとなり、審議会の答申にも盛り込まれ、さらに議会からも一般質問等で提言があり、計画の中に位置づけられたとのことである。
 - ・その後、平成24年8月には先進地視察や制度内容等の検討協議を重ね、翌9月には実施要項や登録基準等を作成し、ボランティア・受入事業所等の募集、平成25年4月には要綱を制定し、6月より事業を開始されている。
 - ・介護支援ボランティアポイント制度の利用の流れは、まずはボランティアポイント制度の登録を行い、登録された介護保険施設等で活動を行った場合、1時間程度の活動で1スタンプ（1日上限2スタンプ）が付与され、活動者の申請により、年度ごとのポイントに応じて市内共通商品券に交換できるものである。
 - ・今後の課題として、住宅などの介護施設外でも制度導入を検討しているとのことだが、スタンプの管理方法に苦慮されているとのことであった。また、導入後、時間も経過していないことから、どれだけの費用対効果があるかは不明であるとのことであった。
- ◇今後の高齢化社会を考えると、介護が必要となる方を少しでも抑える必要があり、このためには、外に出ることにより、健康寿命が延びていくと考える。この制度は、高齢者が外に出るきっかけづくりになり得る事業であり、碧南市においても検討していく必要があると考える。



【深谷市・・・ビーチバレーコート場整備について】

- ・碧南市の碧南緑地にビーチバレーコートを整備する計画があり、内陸地で海も砂浜もない深谷市のビーチバレーコート視察した。
 - ・ビーチバレーコートは、深谷グリーンパーク内に一面のみ整備されており、パーク内には、北関東最大級の屋内プールがあり、四季折々の花が咲き、特産野菜も販売されているところに整備されていた。
 - ・整備に至る経緯として、深谷市はバレーボール競技が盛んであり、ジュニアも高校も全国優勝している経緯がある。その中で、2020年東京オリンピック開催に伴い、平成26年9月にバレーボール競技のキャンプ地として立候補されたが、埼玉県バレーボール協会等との協議の結果、ビーチバレーコートがあると有利であるとのことから、整備に踏み切ったとのことである。
 - ・ビーチバレーコート整備に係る費用としては、オーストラリア産のホワイトサンドが約400万円であったが、協賛企業のハリオ㈱が提供していただいております。他は、ほとんどが市職員による手作りで、材料費として約63万円とのことであった。また今後の管理費用としては、ホワイトサンドの補充と消毒で2ヶ年で5万円程度が必要となるとのことである。
 - ・平成28年4月のオープン以来7月までで、一般利用者（時間500円）は8日間、述べ75名。また、市内高校のバレーボール部が全国大会出場を目指しビーチバレーチームを編成し活動しているため、ホームコートとして利用（無償）されているとのことである。
 - ・公式のビーチバレーボール大会の開催を目標としていることから、今後はコートの増設を検討されているとのことである。
- ◇砂は協賛企業からの提供、整備は職員の手作りということから破格の金額で整備されていたが、利用者からの評判も良いとのことであり、職員のやる気が伺えるコート整備であった。今後、碧南市も整備が始まっていくが、利用者からも、市民からも良い評判が出るビーチバレーコートにしていきたいと考える。さらに、折角コートを整備するのなら、ビーチバレーのメッカとなるような取り組みも行っていただきたいと考える。



【中央区（シルヴァーウィング）・・・介護ロボット導入について】

- ・介護士の離職率が高い中、介護を受ける方は増加しており、少しでも離職を防ぐために介護ロボットを導入している法人に行き、研修をさせていただいた。
 - ・社会福祉法人シルヴァーウィングは、特別養護老人ホームやショートステイ、デイサービス等を行っている法人で、平成25年度より介護ロボットを導入し、今では20種類を導入している。
 - ・介護士は、メンタル的にも肉体的にも負荷が高く、離職していくとのこと、この負荷を少しでも取り除くためにロボットの導入に踏み切ったとのことであり、介護離職率もかなり低くなったとのことであった。
- ◇今後の碧南市内の法人においても介護士の確保が難しくなってくると予想される。現在、国の補助メニューを使いロボット導入補助は行っているが、介護士確保の観点からも市独自の補助メニューを検討する必要があると考える。



視察研修報告書

平成28年11月4日

議員氏名 杉浦 文俊

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成28年10月17日（月）～平成28年10月18日（火）
- 2 視察先 埼玉県春日部市、深谷市
- 3 視察の種類 会派視察研修（市民クラブ）
- 4 視察の成果等

《介護支援ボランティアポイント制度について》

- ・春日部市の高齢化率は28.0%と碧南市の22.5%に比べはるかに高齢化が進んでいる中、介護予防事業として立ち上げられた。
- ・制度は、介護支援ボランティアを登録した高齢者が、介護保険施設等でボランティア活動を行った場合に一時間につき1ポイント（1日上限2P）を付与し、年度ごとにポイントに応じて市内共通商品券に交換するといったものである。
- ・活動内容は資格が必要なものではなく、お茶出しや配膳、散歩や館内移動の補助、話し相手などといった、軽微かつ補助的な活動になる。
- ・平成25年の制度ができてから、登録者数・受入事業所は年々増加傾向にあり、平成28年9月末時点では参加者は531名、市内事業所は全体の約75%が申し出ている。参加者からは「施設を理解することができた。施設内にも元気な人がいたほうが良い」、事業所からは「入居者たちの話し相手になってくれることが助かる」という声が上がっており好評である。
- ・平成28年の予算は363.2万円（ポイント交換費用250万円、事業費113.2万円）国庫交付金は25%になる。



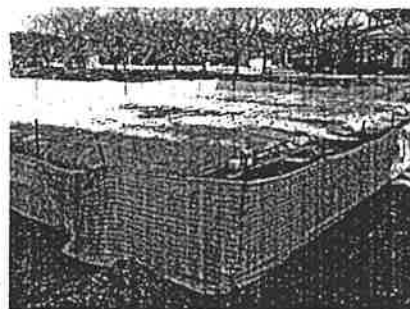
所感

- ・碧南市も将来、超高齢化社会になるといわれている中、高齢者の方がいつまでもお元気でいて頂くには、日ごろからの健康促進や介護予防が大切となる。ボランティアを始めるきっかけを作り、通じて介護予防につながるこの制度を碧南市で立ち上げるには、参加者と事業所の声を聴き、需要と供給のバランスを調べる必要があると感じた。また予算の2/3が市内共通商品券費用であるため、ポイント制度を活用することで地域活性化にもつながると思われる。

《ビーチバレーコート場整備について》

所感

・今回は自主視察となったため、ビーチバレー場のみの見学となった。深谷市は2020年東京オリンピック・パラリンピックのバレー競技のキャンプ地として平成26年に立候補を表明している。その際、ビーチバレーに対応できるようビーチコートを手配して平成27年に新たに設置することとなった。現地を視察すると、当然ながら海に面してはおらず、芝生広場の中にビニールシートに覆われたコートが一面のみの状態であった。ロッカールーム、シャワー室等は屋外になく、敷地内にある温水プールに設けられた設備を供用している。深谷市はオーストラリア産の砂を使用し、碧南市も同産の砂を使用する計画であり、2年間の砂の維持費は5万円である。碧南市の場合はコート数が多く、海に面している分深谷市よりも風が強くなるために維持費がかかると思われる。年間を通じて利用者はいると聞くが、高校生の部活動等であるため、碧南市でも学校、企業等にビーチスポーツの普及促進を促し、利用者を待つのではなく集める必要があると感じた。



視察研修報告書

平成28年11月4日

議員氏名 神谷 悟

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 平成28年10月17日（月）～平成28年10月18日（火）
- 2 視察先 埼玉県春日部市、深谷市、社会福祉法人シルヴァーウィング（東京都）
- 3 視察の種類 会派視察研修（市民クラブ）
- 4 視察の成果等



★目的

○私たち市民クラブは上記の日程で、埼玉県春日部市「介護支援ボランティアポイント制度について」・埼玉県深谷市「ビーチバレーコート場整備について」・東京都中央区社会福祉法人シルヴァーウィング「介護ロボット導入について」をテーマとし、先進地である各自治体・福祉施設の視察を実施しました。テーマの選定としましては、碧南市の弱み・強みを鑑み、今後の本市において、展開できる施策や改善案等、非常に参考になる点が多いと考え、選定させていただきました。

◆テーマ 介護支援ボランティアポイント制度について（春日部市⇒1日目）

◇まずは、介護支援ボランティアポイント制度の立ち上げの経緯については、第5期事業計画の策定にあたり介護予防事業として当制度の導入に向けて審議会委員からの提言があり、審議会の答申に盛り込まれ、計画の中に位置づけられました。

具体的なしくみと活動内容については、介護支援ボランティア登録をした高齢者が、介護保険施設等でボランティア活動を行った場合にポイントを付与し、当該高齢者の申出により、年度ごとにポイント

介護支援ボランティア手帳

に応じて市内共通商品券に交換できるようなシステムとなっております。

(1時間程度の活動で1スタンプ、1日2スタンプが上限)

事業費＝予算3,632,000円/年間 ・市の繰入金＝454,000円

ボランティア登録者数＝531人

【所感】

- ・高齢者が介護保険施設などで行う介護ボランティア活動を通じて、社会参加や地域貢献を前向きに参加、支援することで、自分自身の健康増進や介護予防につながるすばらしい事業であると感じました。また、人と人との交流の場も増え認知症などの予防に効果があると思いました。碧南市には、シルバー人材センターがあり、元気な高齢者の仕事の間を提供していますが、今後このような介護ボランティアポイント制度も取り入れていくべきであると感じました。

◆テーマ ビーチバレーコート場整備について(深谷市⇒2日目)

◇2日目は深谷市深谷グリーンパーク内にて現地視察させていただきました。設置にいたる経緯としては、2020年東京オリンピック開催に伴い、平成26年9月深谷市がバレーボール競技のキャンプ地として立候補。これに伴い、埼玉県バレーボール協会等関係機関と協議した結果、ビーチバレーコートが設置されていると有利であるという助言から、ビーチコート設置に向け始動したそうです。

整備費においては、4,633,000円でありましたがコートの砂は協賛をいただいたメーカーさんに寄附(約4,000,000円)をしてもらったそうです。維持費は、2年に一度砂の補充と砂の消毒代に5万円ほど必要とのことでした。利用者及び、市民の反応については本場ビーチの砂(ホワイトサンド)であるため、利用者からの評価は高いようです。コート使用料は1時間500円で運営。

深谷市視察風景



【所感】

- ・海岸や海に面していない埼玉県において、ビーチバレーコートが設置されている深谷グリーンパークへ視察させていただきました。現在、碧南緑地整備検討委員会にて議論されているビーチバレーコート整備において、参考・展開できる点などはしっかりと提言し、スポーツ施設の効果的な整備と促進を進めることが重要だと考えます。そして、利用者の満足度の向上に努め、さらに利用者の利便性や安全性を考慮していく必要があると思います。碧南市において、今後のスポーツ施設のレガシーとなるように整備費等を鑑み、取り組みを行っていただきたいと感じます。

◆テーマ 介護ロボット導入について（東京都中央区⇒2日目）

◇2日目の午後からは、社会福祉法人シルヴァーウィングが運営する介護老人福祉施設の視察を実施させていただきました。当施設は平成25年度から、ロボット介護機器を現場に導入し、利用者の方々の安全性の確保、機能訓練効果の向上、ADL改善、QOL向上と介護者の介護負担の軽減、介護作業効率化を目的に積極的に介護ロボットの導入を進めてきたようです。

人手を基本としながら人とロボットの最適な組合せを考えて、利用者の生活の質の向上を図ること。人とロボットのワークシェアで新しい介護のあり方を構築し、人に協力して働くロボット介護機器を利活用して、負担の少ない新しい介護のあり方を構築するために導入しているとのことでした。

マッスルスーツ体験



可搬型階段昇降機



【所感】

- ・2025年問題がささやかれている中、2025年には高齢者人口が約3,500万人（人口比約30%）に達すると推計されていますが、介護施設の問題、介護士不足の問題など今後の課題は山積であると考えます。ロボット導入により介護作業の負担軽減を図ることはこれから大変重要な取り組みであることを今回の視察で再認識させていただきました。国も介護ロボット導入に対して、補助事業を実施していますが、今後更なる拡充を進めていただきたいと思います。介護従事者の離職率も非常に高い中、働きやすい職場環境を整備することにより、介護士等の確保にもつながると思います。ロボット導入のメリットをしっかりとまとめ、数値的に効果を表していただくことが今後は必要であり、その効果からロボット導入推進の加速化につながると確信しています。

今回の研修、本当にありがとうございました。

神谷 悟